

聞きました! 定期演奏会の見どころ

4種類のトランペットを持ち替えて演奏します。音色の違いにも注目してください!



トロンボーン奏者は、演奏会前にスライドを落とす夢を見るのがあるあるの話です。頑張ります。

楽しい曲は手拍子をして一緒に楽しみましょう!



メイン曲「プスタ」では、私たちクラリネットが大活躍します!



低音で音楽を支えるチューバにも注目。楽器が大きいのでセダンタイプ車は買えません。



第8回定期演奏会

公演日時 10月6日(日) 午後1時30分開演(午後1時開場)

会場 かみす防災アリーナ 音楽ホール

プログラム 『秋空に(行進曲)』『主よ、人の望みの喜びよ』『塔の上のラプンツェル・メドレー』『プスタ』ほか



なると誰もが真剣な表情になり、めりはりが利いていきます。

主な活動について和泉さんが教えてくれました。「メインは毎年秋の定期演奏会です。他に、かみす防災アリーナで開催されるかみすフェスタ、神栖市民音楽祭、地域のお祭りなどで演奏をしています。また、市内小・中学校に団員が訪問し、吹奏楽部の生徒さんにアドバイスをする活動もしています。生徒さんたちには、卒業後も一生の趣味として音楽を続けてもらいたいですね」

実は団員数が少ないと、演奏できる曲も限られてしまうのだとか。定期演奏会の際は、交流のある近隣の吹奏楽団に不足人数の応援を依頼している状況だそうです。「何年ブランクがあっても大丈夫ですので、また楽器を演奏したいと思う方は、ぜひ遊びに来てください」と呼び掛けます。

仲間との一体感が生まれる瞬間

演奏する人にとって吹奏楽の魅力とは何なのか、3人に聞いてみました。「いろいろな楽器が集まって演奏をしますが、練習をするほど一つに



2023年にかみす防災アリーナで行なわれた第7回定期演奏会

まとまっていき、一体化したときの感動は演奏者しか味わえません。しかもステージ上でそれができたときは最高です」と話す和泉さん。小林さんは、その一体感を絵画に例えて「まるでモネの絵のように、さまざまな色彩(楽器)で音楽を描けるのが魅力ですね」とすてきに表現します。続けて津崎さんも「吹奏楽は一人ではできないものなので、仲間と一緒に曲をつくり上げていく喜びがあり



練習を重ねるごとに一体感が増す

ます。それに、演奏者の成長段階によって楽器の音色が全然違っていきのもの味わい深いですね」と話してくれました。

津崎さんは東京の音楽大学に進学して一時期楽団を離れていましたが、神栖市に戻って中学校の音楽教員となり、再び楽団に加わりました。ほかの団員も、さまざまな人生経験を経て今があります。「今までの人生経験が、音楽の味わいや、演奏を

舞曲。そう教えてもらっただけで遠い異国の風景が思い浮かび、曲の印象がずいぶん違って感じられます。

手拍子で盛り上がるのもOK!

10月6日(日)にはかみす防災アリーナ音楽ホールで、第8回定期演奏会が開催されます(入場無料)。「秋空に(行進曲)」「主よ、人の望みの喜びよ」「塔の上のラプンツェル・メドレー」「プスタ」などの演奏が予定されていますので、この機会にぜひ聴いてみませんか?

ところで、吹奏楽を楽しむコツがあるのか質問してみました。「かしこまらず、リラククスして聴いていただくのが一番です。楽しい曲なら手拍子をしてもらってもいいですよ。ワクワクするようなリズムの曲は、団員の方から手拍子を誘うこともあります。お子さんや赤ちゃんも一緒に連れてきてください」

『プスタ』は舞曲なので、自然に体でリズムを取りたくなるかもしれません。肩の力を抜いて楽しめそうですね。

吹奏楽団への思いは熱く

「順調にいけば、再来年は第10回

合わせる力」に表れます。そこも市民楽団の魅力だと思います」

「聴いてよかった」と思える曲を選ぶ

吹奏楽の特徴の一つは、多彩なジャンルの曲を演奏できること。吹奏楽のためのオリジナル曲をはじめ、クラシック、行進曲、ジャズ、ポップス、ロック、さらに映画の主題歌、アニメソングまで、その幅広さには驚くばかりです。一体どのような曲で演奏する曲を決めているのか、小林さんが答えてくれました。

「団員から候補を挙げてもらい、その意見を取り入れて最終的に私が判断します。私のポリシーは、聴衆の皆さんに感動していただける曲を選ぶこと。あまり知られていない曲でも、ああ、聴いてよかった」と思っていた曲が目標です。もちろん、皆さんがよく知っている曲も選びます」

指揮をするには、曲の時代背景から作曲されたいきさつ、作曲者の思いまで徹底的に分析するそうです。例えば、定期演奏会の曲目である『プスタ』(ヤン・ヴァンデルロースト作曲)は、ハンガリーに広がる穀倉地帯(プスタ)に暮らす遊牧民の

の定期演奏会となるので、節目にふさわしい曲や演出をしたいと考えています」と構想を語る和泉さん。コロナ禍では活動がままならず、「音楽の火を消さないように」と頑張っで活動してきましたが、定期演奏会を開催できない年が続きました。それもあって、団員の大きな目標となっている定期演奏会にかける思いは熱いものがあります。

神栖ウインドアンサンブルへの熱い思いは、指揮者の2人も同じです。「この楽団は確実に成長しています。これからも少しずついいので成長し続けてほしい。それが望みです」と話す小林さんと、「小中高で吹奏楽を始めた子どもたちが、社会人になってまた演奏したいと思つたと戻れる居場所」になることを願っています。そうならば、神栖市の吹奏楽がもっと盛り上がっていきしょう」と、今後を見据える津崎さん。

「ぜひ一緒に楽しみましょう」と声をそろえる3人。聴きたい人も、演奏(入団)したい人も、気軽に足を運んでみませんか?

